

NGN時代のライフスタイルを提供する MyCall統合IPソリューション

メッセージングやリビングなどのキャリア向けソリューションで実績を持つコンパースが、今特に力を入れている事業分野が統合IPソリューションだ。NGN時代の新たなサービスの実現手段となり得るこのソリューションの概要を、11月に開催されたコンパースビジョンセミナー2007 JAPANでの、統合IPコミュニケーション プロダクト・エキスパートの鎌田昌保氏の講演から紹介する。

70の事業者が導入

当社の統合IPソリューションは大きく2つのラインナップで構成されており、1つはコンシューマー向けの「MyCallソリューション」、もう1つがビジネス向けの「統合IPセントレックス」です。

前者の「MyCall」は、テレフォニーアプリケーションサーバーとメッセージングアプリケーションサーバーを中心に、ネットワークアドレス帳、プレゼンスサーバーなどの構成に、IPTVやVODのソリューションも用意しております。さらにFMCサービスに必要となるVCC (Voice Call Continuity) サーバーを提供することで、携帯からでもIPネットワークからでも接続可能な統合サービスが実現できます。

端末側のラインナップとしてはPC上で稼働するPCコミュニケーター、デュアル端末で利用できるモバイルコミュニケーターというクライアントソフトも提供しております。

これらを活用することでPCと携帯の同時リングングや、異なる端末から同

一の発IDでの発信、テレビ画面での着信の確認や転送設定といった、さまざまな統合サービスが実現できる仕組みなのです。

MyCall統合IPソリューションは、欧州を中心に70以上の事業者で商用導入されており、500万以上のユーザーに利用されている、導入・運用実績の豊富なソリューションとして評価されています。

「統合IPセントレックス」も、豊富な商用実績を持ち、携帯および固定の双方のネットワークに豊富なビジネステレフォニー機能を提供できるIPセントレックス・プラットフォームです。柔軟なプロビジョニングツールによってIPセントレックスサービスのリセラーを可能にしました。通信事業者によるSOHO向けサービスパッケージ作成、リセラー、企業やユーザの階層毎にプロビジョニング用のGUIや音声ポータル機能を備えているのが特徴です。

個別化する通信サービス

さて、このような統合IPソリューション



日本コンパース
統合IPコミュニケーション
プロダクト・エキスパートの
鎌田昌保氏

ンを活用するには、ライフスタイルのニーズという視点から統合サービスを考える必要があります。

20年前の通信環境を振り返ってみると、ほとんどの家庭では通信端末は固定電話が1個だけという状況でありました。すなわち当時は、電話番号は家庭の唯一の通信用IDだったのでした。

この状況が大きく変わったのが10年程前に、携帯電話とインターネットが急速に普及したことにはじまりました。

特に、携帯電話は家族より個人という、ライフスタイルの変化とマッチして大きく普及してきたといえるでしょう。電話番号というIDが個人に振られ、電話をかければ個人につながるというのは、まさに大きな変革でした。

インターネットでは、とりわけ電子メー

ルがパーソナルな通信手段として普及しました。現在では電子メールはPC以上に携帯電話で利用されており、はばひろい世代に広く普及しています。

近年、インターネットの用途は非常に多岐にわたるようになってきました。インターネット上での電話も可能になりましたし、ネット上にさまざまなコミュニティも出現しています。

このようにさまざまな通信手段が登場してきたことで、便利にはなってきたのですが、反面、煩雑さを感じることも増えてきました。

その大きな要因の一つとしてIDや情報管理が端末、サービスごとに個別に行われているところにあるのではないのでしょうか。端末やサービスから個別のIDや情報管理を切り離すことが求められているのです。NGNIは、こうした状況を解決することができるプラットフォームです。

統合サービス構築の3つのキー

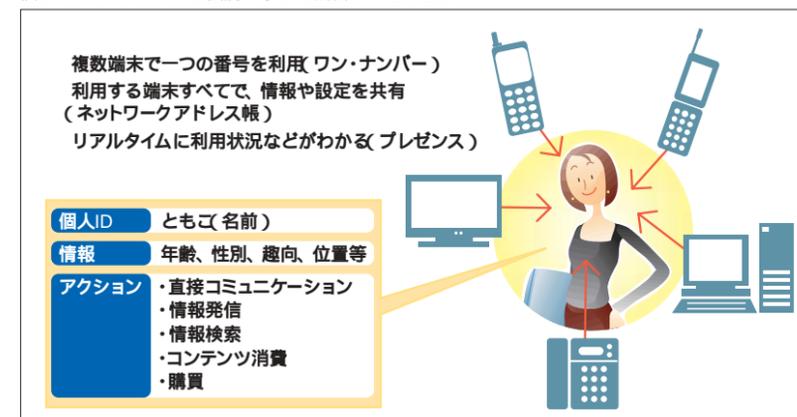
NGNは、セキュリティや通信品質がしっかりと保証された、オープンなネットワークを目指しています。

サービスごとに垂直型で分かれていた従来のネットワークや端末が、水平に統合され、どんな端末からでも同様のサービスが利用できるような環境が実現できます。

これによりコミュニケーションの手段は非常に多様なものになると考えられます。しかし、通信の相手はあくまでも個人です。端末・サービスが多彩になればなるほど、より個人の存在を強く意識したサービスが求められることになると思います。現実化すれば、グループ内のコミュニケーションを時間や場所を意識することなく、より円滑にすることが期待できるわけです。

こうしたニーズを満たすものとして我々が考えているのが、ネットワークや端末に依存しない「統合サービス」です。

個のアイデンティティの強調が求める統合サービスとは



このサービスを実現していく上で重要なのが、複数の端末で1つの電話番号を共有できるワン・ナンバー、利用する端末すべてで情報設定を共有可能、リアルタイムに利用状況などがわかるプレゼンスなどの機能です。

個別に見ていきましょう。

ワン・ナンバーを実現するためには2つの重要なファクターが存在します。1つが利用端末の同時リングング、すなわち固定電話と携帯電話、さらにはPCでも同時に呼び出し音が鳴るようにすることです。もう1つがどの端末から発信しても同じ番号が表示される発IDの一本化です。

さらに、これは必ずしも同じ番号というわけではないのですが、会社の携帯電話や固定電話からの転送設定など、柔軟なコールルーティングを確保することも重要なファクターといえます。

最近、Wi-Fiと携帯電話のデュアルモード端末を使ってIP電話と携帯電話双方が利用できるワンフォンと呼ばれるサービスが登場したことによって、ワン・ナンバーのニーズはさらに高くなりました。

次に、情報共有では、ネットワーク上でアドレス帳を共有したり、更新できる機能が重要だと思います。

オープンなサービス環境においてはこうしたIDや連絡先などの情報を管理する事業者が非常に重要な役割を果たすことになると考えられるからです。

番目のプレゼンスには、その個人のリアルタイムのさまざまな情報が含まれており、例えばどのような端末が利用できるのか、その機能はどういう種類のコミュニケーションができるのか、「応答したい」「したくない」という意見に関する情報、さらにはロケーションなどもそうです。

オープンな環境では、これらの情報はさまざまなアプリケーションや接続される他のネットワークに共用されることも想定されます。その意味でプレゼンス情報の管理もまた、オープンな次世代ネットワークでのサービス構築の重要なキーとなることでしょう。

これらによって、端末ではなく個人に対して通信するというサービスが実現されていくと考えられます。

私もコンパースは、エンドユーザーのニーズに合い、事業者の収益に寄与できる広範囲な統合サービスソリューションを提供いたします。

CSCF、HSS、SBCなどのIMSコア製品から、各種アプリケーションサーバの他、オープンに様々なアプリケーションやネットワークと接続できるメディアプラットフォームも提供しております。統合サービスをご計画される際には、是非当社のソリューションをご検討ください。

お問い合わせ先
株式会社日本コンパース
TEL : 03-5324-9111
Email : japan.info@comverse.com
URL : http://www.comverse.com/japan/

MyCallソリューションの概要

